

生駒市学校教育のあり方検討委員会 就学前教育・保育部会  
令和元年度第7回（第12回）会議 議事概要

開催日時：令和元年 10月 28日(月) 午後 1時から午後 2時 40分まで

会 場：生駒市役所 大会議室

会議次第：

1 案 件

(1) 公立幼稚園の評価対象・評価項目について

① 「望ましい」幼稚園の適正配置

② 「望ましい」幼稚園の運営体制

③ こども園化評価項目

(2) 「望ましい」幼稚園評価案について

(3) 今後の公立幼稚園のあり方に関する方針について(答申案)について

(4) その他

出席者：吉岡 眞知子 岡島 保弘 山中 治郎 上田 直美 有吉 正晃 米田 恵美子

欠席者：なし

傍聴者：なし

事務局：

定刻となったため、ただ今から「生駒市学校教育のあり方検討委員会 就学前教育・保育部会 令和元年度第7回（第12回）会議」を開催する。

(配付資料の確認)

事務局：

それでは、会議次第に基づき、会議を進めさせていただきます。

**会議次第1 (1) 公立幼稚園の評価対象・評価項目について**

**(2) 「望ましい」幼稚園評価案について**

事務局：

資料に基づき説明

部会長：

ただ今の事務局からの説明を受けて、これまでの委員意見が反映されているかどうかもふまえて、質問、意見等はないか。

委員：

統合した園は幼稚園型のこども園という位置づけになるのか。

部会長：

認定こども園生駒幼稚園のように、幼稚園型のこども園とするか別の運営体制とするのかは別途検討する必要がある。

園単独でこども園に移行するのではなく、園を統合したうえでこども園化に移行することについては今回の答申で言及することとなるのか。

事務局：

今回の答申案では 5 ページとなるが、園の統合やこども園化については、今日の部会において評価項目の検討等を行っていただいた結果をふまえて、検討していきたいと考えている。

部会長：

“園の統合も含めて”という文言を入れることとするのか。それによって、市や教育委員会として、A 園と B 園とするといった具体的な園名の検討等に入ることとするのか。市のスタンスによって文言も大きく変わる事となる。

委員：

園の統合だけを考えるのではなく、認定こども園生駒幼稚園のように 1 園が単独でこども園化することは考えられないのか。

事務局：

園児数が減少していくことを考えれば統合は避けられないと考える。

委員：

将来的な財政負担について、今後の施設の老朽化についても評価の 1 つの要素として入っていると思うが、近隣の就学前教育・保育施設の立地との関係を市としてどのように考えていくかが大切な視点となるのではないか。

部会長：

市として、現時点における将来的な財政負担額について数字を持ち合わせているのか。

事務局：

今回、現在の見込みとしては、各園からの予算要望の意見に加えて、前回の改修工事からの経過年数を反映したうえで大規模改修工事費用を見込んだところである。

委員：

すべての園についてこども園に移行できるか否かの評価を行っておくべきではないかと考えるが。

部会長：

市としても、園の老朽化の進展度は一番考慮すべきはずなのに、一律に点数化すると事前のその考慮が失われてしまうことを懸念する。

委員：

園の大規模改修は必ず生じるもので、それを評価項目の 1 つの要素として考慮して

しまうと不公平が生じることから、大規模改修を平均に入れるのは私立園の経営においては考えられない。

委員：

園の適正配置については、運営体制を除くこととしたらいいのではないか。

委員：

近隣の就学前教育・保育施設の立地状況について、2km以内に公立幼稚園があれば私立幼稚園・保育所があっても×ということになっている。

例えば、生駒台幼稚園であれば2km以内に公立のひがし保育園や私立のエンゼル幼稚園もあって×となるが、近隣の就学前教育・保育施設の立地については各園としてもいかんともしがたい面もある。

事務局：

仮に公立幼稚園が統合等によって閉園となった場合に代わりとなる就学前教育・保育施設が2km以内にあるかを考慮したところである。

委員：

市の方針としては、公立幼稚園を残していこうという意向であるのか。

事務局：

私立幼稚園への入園内定者が3月末になって入園を断られることもあるようで、その結果、公立幼稚園やこども園の1号認定子ども枠で受け入れることとなる子どもも年に何名かいると聞いており、公立幼稚園には最後のセーフティネットとしての役割が課せられているものと認識している。

委員：

公立園の役割について最初に言及されていないのが気にかかる。最初のところで、公立園を残していきたいという思いはあるが、それが難しいので今回の検討に至ったということだと考えるので、その大前提について言及しておいてもらう必要があるのではないか。

部会長：

確かに、その大前提があれば今回各園について評価を行ったことも分かりやすくなるように思う。

部会長：

数字を全部あげたうえで、答申を出すのであればいいと思う。

こども園化するに必要な項目として、駐車場、厨房設備が備えられるのであればこども園化もふさわしいが、すべての園がこども園化できるわけでもないで、どの園からこども園化するかについては平等に評価するべきであり、次の段階で書けばいいように思うが。

事務局：

この部会に限らず、各部会における答申案を取りまとめたうえで教育長へ提出し、

それをもって教育委員会で議論されることとなる。

委員：

在籍園児数の推移によって判断している幼稚園ニーズは×ばかりとなっているが、今後も少子化が進展し園児数が増加することはないと考えられるので、◎となることはあり得ないのではないか。

事務局：

園児数の推移に修正して表記することとする。

部会長：

◎となることはあり得ないのではないか。

委員：

在園児数が 50%未満となる園がすべてであるため、横ばいとなる園を◎とすべきではないか。

事務局：

子育て世帯を対象として今年度実施したニーズ調査において、幼稚園に通園したいかどうかの質問項目があり、現在、市の北地区、中地区、南地区で区分した集計の結果は持ち合わせている。しかし、それぞれの園区ごとの数字は集計できるか否かも含めて検討させていただく。

部会長：

評価するのに明確な根拠はないということになると、それで評価してしまうのは適切とは言えないように思う。

### **会議次第 1 (3) 今後の公立幼稚園のあり方に関する方針について(答申案)について**

事務局：

答申案について説明

部会長：

ただ今の事務局からの説明を受けて、これまでの委員意見が反映されているかどうかもふまえて、質問、意見等はないか。

事務局：

今日の部会でいただいた意見もふまえて大幅に修正させていただくこととなるため、いったん事務局で作成し郵送させていただくこととする。

### **会議次第 1 (4) その他**

部会長：

何か連絡事項等はあるか。

事務局：

(事務連絡)

部会長：

これをもって「生駒市学校教育のあり方検討委員会 就学前教育・保育部会 令和元年度第7回（第12回）会議」を終了する。

以 上